

○第2回 釧路市強靱化計画有識者懇談会 発言概要整理表

資料1

課題カテゴリ		主な指摘等	委員名	市としての考え方	計画反映の内容
KPIの蓋然性		釧路港の取扱貨物量の指標になにか予防できることがあるのかと疑問に思った。経済活動に直結するものではないのでは？	畑委員	・平時における物流機能の強化は、非常時の物流確保につながるため指標として設定 ・リスクシナリオ5に「事業継続力強化支援計画に基づく事業継続力強化計画の策定数」を目標値の追加	釧路港の取扱貨物量の事業指標は残す。 釧路市強靱化計画（別冊）のリスクシナリオ5に「事業継続力強化支援計画に基づく事業継続力強化計画の策定数」を事業指標（KPI）として追加
KPIの考え方		KPIは強靱化としてリストアップしているものだから出しているのではなく、これから次に達成しないとまらない目標を見せていくということが必要かと思った。	金子委員	・達成しなければならない項目について、事業指標となるもの目標として設定	
KPIの考え方		KPIは、思いきって見直していくという議論もよいのではと思った	小磯座長	・シナリオ5の経済活動の維持にKPIを新たに追加	釧路市強靱化計画（別冊）のリスクシナリオ5に「事業継続力強化支援計画に基づく事業継続力強化計画の策定数」を事業指標（KPI）として追加
エリア別BCP		釧路港が被災したとき、津波が起きるとかなりの影響がある。いざ物資を運ぶとなると東港がメインとなると思うが、川で分断されているのが釧路の特徴なので、そういった視点でBCPを行うことも重要と思う。	畑委員	・釧路港港湾BCPにおいて、緊急物資輸送やエネルギー輸送など港湾機能別に行動計画を定めている ・地域防災計画に基づき緊急物資輸送路の確保を行う	
避難経路の確保		物資の供給や輸送を考えると釧路港の重要度は極めて大きい、トラックを逃がすための道路や誘導の仕掛けを考えていかなければ、津波にトラックなどが流されてしまうと、物資の配送等にも影響してくる。	清水委員	・消防警防規定に則り発災後、緊急車両の退避を実施 ・トラック等の一時避難などについて関連機関と協議 ・国主導の道路啓開計画に基づく優先道路の迅速な復旧	
学生への防災教育		大学でも意識向上を狙う教育が大事で、大学生も大人で、小学校、中学校やりやすいのがあるが、避難所を運営できる側にもなれる大学生への教育は重要だと思った。	高橋委員	・大学側と連携した新入生向けの出前講座等の実施検討 ・公立大による学生参加も含めた防災総合訓練等の実施 ・公立大学法人化後における大学BCPの策定の検討	
学生への防災教育		KPIの中に人命の保護、地震の教育を高める授業ということで、小学校中学校の割合がでている。新聞記事で、10代の世代がどこに避難してよいかわからないということが特に大学生が重要なのかなと思った。	畑委員	・大学側と連携した新入生向けの出前講座等の実施検討 ・公立大学の津波緊急避難施設及び広域避難場所の指定に基づき、全学生に配付する学生便覧内での避難場所の周知	
官民連携	危険度判定役割分担	災害時の応急危険度判定等の協定について打診をしているが、釧路市はどうして協定を結ばないのと言われている。応急危険度判定を市の職員がすべて実施するのは大変なはず。	金子委員	・建築士会等との協議の継続	
共助体制		町内会の枠組みにとらわれず新しいコミュニティの形をとることが大切。防災活動に地域の人が助け合える、防災に特化した地域コミュニティの在り方を検討できるのではないかと感じた	畑委員	・地域コミュニティについて町内会や自主防災組織が基本のため、これに代わるコミュニティの創出は非常に難しい	
啓発と行動の連携		国や北海道では防災意識が向上したら、被害が減少するといったロジックができていないくて、意識が向上したときに住民がどう動くかという検証ができていなくてブラックボックスになっている。意識が向上して、どう行動するかが重要という点を議論する必要があると思う。	高橋委員	・国や北海道の動きを含め見定めていくとともに、引き続き助言を頂きたい	

公助姿勢		妊産婦に対する災害のリーフレットをいつから渡されていたのかと感じた。もっと情報発信していくべきでは？	金子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度より妊娠届出時及び乳幼児健診時に配付</li> <li>・掲載内容については関係課と協議しながら更新</li> <li>・今後の情報発信について関係課・機関等と連携して実施</li> </ul>	
職員のBCP浸透		受援体制で、もっとも重要なのは市の職員がどれだけ防災に関係ない職場でも、知識を身に付けているかも気にしていただければと思う	高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市職員による年1回の避難所運営訓練の実施および釧路市総合防災訓練や地域住民参加型の避難訓練への参加</li> </ul>	
他被災地バックアップ		各地域で強靱化計画は、いろいろな議論が起こっていて、たとえば、北陸で太平洋側で港が停止したら、自分たちの港が使えるぞという議論もある。釧路の場合は、そういったバックアップの視点も必要。	小磯座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北海道バックアップ拠点構想」の釧路・根室地域の拠点形成の基本方向に記載された物流拠点釧路港を活用した農水産物や加工食品などの安定的な生産・貯蔵・供給体制の強化</li> <li>・道内各港が連携した北海道太平洋側港湾連携による災害時の相互応援に関する協定の締結（H28.11締結）</li> </ul>	<p>バックアップ機能については、非常に大事な視点ということもあり、釧路市強靱化計画3ページの「釧路市強靱化計画の趣旨」にバックアップ機能について追記</p>
他被災地バックアップ		ブラックアウト時には釧路港が道産の食糧を本州へ運ぶという重責を行った。明確に記載はできないが、相互応援体制としてあってもよいかと思った。	畑委員		
他被災地バックアップ		首都圏などで大規模災害が起きたときに、釧路の港はこんなに役立つんだという視点で、考えていくことも必要かなと思う。	小磯座長		
電源確保		胆振東部地震でバスで給電した例もある。動く給電（EV車）を検討必要がある。	高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給電可能なハイブリット車等の次世代自動車への更新の推進</li> <li>・自動車販売店協会会員15社と災害協定の締結（R2.11）による次世代自動車の派遣および避難所での給電体制の構築</li> <li>・庁内含めた協議の継続</li> </ul>	
電源確保	市民周知	給電スポットがハザードマップに掲載されていることを知らなかったので、市民の皆さんが存じ上げているのかと感じた	畑委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き周知を継続するとともに周知先について協力を頂きたい</li> </ul>	
電源確保		電力エネルギーの供給が大事なのかなと思った。情報の出し方いろいろと方法はあるが、情報を得るデバイスが動かないとなるとどうにもならないため、動かすための仕組みについてしっかり考えていく必要があるのではないかと感じた。	高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオや防災無線など様々な情報伝達手段を確保および情報発信の多重化の推進</li> </ul>	
電源確保	市民周知	人命の保護の情報伝達、大事だが、難しいのは理解している。あらゆる年代層に訴えられるところは、町内会の活動をしているなかでも、年代層ごとの取り組み、充電場所を設けているかなどのアンケートをやって率をあげていくことは重要なのかなと思った。	畑委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波浸水立体画像を活用した出前講座などを実施および情報発信の多重化の推進</li> </ul>	
電源確保		強靱化計画素案の38・74ページに再生可能エネルギーとあるが、地場産のエネルギーの太陽光や火力発電を地元で使えるような取り組みや補助を出したりするなどはどうかと思った。	畑委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギーや火力発電など、地域内のエネルギーを有効活用することができる仕組み等を検討</li> <li>・家庭向けの太陽光パネルや蓄電池の設置に対し補助金を交付</li> </ul>	
電源確保		今回の強靱化計画の考え方のなかで大きな受け止めをしなければいけないのはブラックアウト。あれだけ離れたところでおきたことが、道東の酪農に大きな影響があった。北海道の電力網の仕組みが大規模集中型の発電であったことが起因しており、あれ以降は分散型の発電が重要となってきているが、計画のなかで分散型のエネルギー施策のような視点も入ってもよいと思う。	小磯座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマスなど地域に賦存する再生可能エネルギー資源の効果活用に向けた取組</li> <li>・石炭採掘・保安技術等の海外移転に向けた取組</li> </ul>	

発災時の情報発信	デジタルデバイス	WEBの情報発信は、ある一定の年代から上の世代はつかめなくなるまた、逃げることも大変になる世代。そういったところこそ、配慮が必要。	畑委員	・ラジオや防災無線など様々な情報伝達手段の確保および情報発信の多重化 ・高齢者のスマホ教室の実施による情報格差の解消	
発災時の情報発信		大事なのはしっかりと情報を発信すること。そこをしっかりと発信してほしい。 強靱化の観点でいうと大規模災害時の突発的な情報発信の仕方は、一般の行政業務とは異なる視点で仕組みの検討が必要	小磯座長	・災害情報の伝達方法の多様化について検討 ・効果的な情報伝達手段の確保および突発的な災害発生に対して瞬時に情報発信ができる体制の構築	釧路市強靱化計画29ページの【1-7-2】住民等への情報伝達の体制の強化に突発的な災害発生に対して瞬時に情報発信ができる体制の構築を修正追記
発災時の情報発信		外国人もわかりやすい情報発信と記載があるが、少し古い印象。 わかりやすい情報をどう発信するかもう少しコアな部分になってきていると思う。非常時における情報伝達、今の施策といかに強靱化計画を結びつけていく、次の議論に盛り込んでいただければ	小磯座長	・非常時のわかりやすい情報発信について検討	
備蓄の蓋然性		備蓄は32ページにあるが、アルファ米はただのお米、お米とミルクにどれだけの水が使われて、どれだけの水が飲み水としてあればわかればと思った。	畑委員	・備蓄に関する飲料水（飲用、ミルク用、食用等）の区別はない ・飲料水等の備蓄のあり方は今後検討したい	
備蓄の蓋然性		備蓄の内容も、高橋委員も言っていたが、避難するときはどう行動するかが重要で、たとえば、水を持って避難をしなければならないとなると、水はずっとあるよとなれば、早く目標を到達できるかもしれない。食べ物と水のバランスが良くないと思う。受け入れする食料と水の量をみるとアンバランスのような気がする。	金子委員		
無電柱化KPI登載		電線の埋設、いわゆる無電柱化などについてはKPIになってはいないが大事なことだと思う。	金子委員	・国・北海道及び電線管理者等との連携を図るとともに、補助制度の動向等を見据えたうえで検討したい ・国において第1次緊急輸送道路の国道44号及び38号の一部の無電柱化工事を推進	
無電柱化KPI登載		無電柱化は、できるものでできないものはあると思うが、市だけでできないことをKPIに入れないのは、本末転倒ではないかと。 基本の姿勢として、民間の意識が必要だからと入れないのは、修正が必要だと思う。無電柱化のKPIは考慮していく必要があるのかなと思った。	高橋委員		
酪農（家畜）		国の港湾BCPの聞き取りがあり酪農業の重要性をキーワードにされている感じがした。 人間も水が大事だと言っていることと同じで、家畜に対しても生きていくために必要な措置があるのかも一つ重要な指標かと思った。	畑委員	・酪農家において停電に対応するため発電機の整備や国営事業等により輸入穀物だけに頼らない自給飼料の確保に向けた生産基盤の整備を実施	
理解促進	市民周知	一般の人は、避難所と一時避難場所の違いを認識できていないと思った。市民の人たちも受け身にならないで情報を理解する必要があると思うが、教育という形で伝えることができないだろうかと思った。また、紙ベースのものも欲しかったと思う人もいると思う。強靱化として伝えてよいかと思う。	金子委員		
理解促進		WEBハザードマップは非常に見やすい。ただ、内容を理解しようとしてもなかなか理解できない。津波の表示もなぜ出たり消えたりするのか、説明を受けると理解できるが、説明がないと、今のままでは、理解できる方は少ないと思う。	金子委員	・避難所と一時避難場所の違いやWEBハザードマップの使い方など出前講座等で丁寧に説明を進める	
リバーシブル視点		非常時だけに役立つような対策であるよりは、平時にも役立つ対策が大事であるし、北海道にも先駆けて、平時にも非常時にも役立つという考え方、道の駅の考え方。少しそういった意見を組み込んでいただければ	小磯座長	・平時や非常時双方で活用を意識した施策立案の実施	